

2018年度 第1回 教育課程編成委員会（看護部会） 議事録

日時： 2018年6月28日（木） 15:00～16:40

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 浴森 公子 岩国市医療センター医師会病院 看護部長  
岡崎 由起 岩国市健康福祉部健康推進課  
村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
藤中 優子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長  
矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行： 江見 享子

記録： 沖島 均

- 配布資料： 1) 2018年度 教育課程編成委員会 委員名簿  
2) 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 教育課程編成委員会 規程  
3) 2017年度 国家試験結果報告  
4) 保健看護学科 カリキュラムおよび学科運営について、重点事項と具体的な取り組み  
5) 看護学科 カリキュラムおよび学科運営について、重点事項と具体的な取り組み  
6) 岩国YMCA学費支援（奨学金・修学資金他）等について  
7) 看護師 学校養成所数及び定員 年次推移  
8) 「職業実践専門課程」の認定状況  
9) 看護基礎教育のあり方に関する懇談会論点整理資料・看護協会ニュース

・今年度より委員の交代があったので、議題に入る前に委員の自己紹介を行った。

## 議題

### 1. 報告事項

#### 1) 2017年度国家試験の合格状況

・江見校長より報告。別紙資料参照のこと。保健師が全国平均合格率を大きく下回ったので、保健師合格率向上に向けて取り組みを強化していく。今回の看護師・保健師の国家試験の合格基準についても説明をした。

#### 2) 2018年度入学生

・沖島より今年度の入学者数の報告をした。保健看護学科50、看護学科14、医療秘書学科13、介護福祉学科11の合計88名。昨年度は92名。学生総数は今年度も昨年度もほぼ変わらない。

#### 3) その他

・福水特別顧問より、①看護師の学校養成所及び定員の年次推移、②職業実践専門課程の認定状況、③看護基礎教育のあり方に関する懇談会等について報告があった。別紙資料参照のこと。  
・全国的に准看護師養成施設の学校数・生徒数ともに減少する中、神奈川県は准看護師養成教育を取り止

める方針を県知事が発表している。

- ・学費支援のための奨学金や修学金などさまざまな制度がある。学生たちの利用率も年々上がってきている。別紙資料参照のこと。
- ・55年ぶりに国がつくる新しい大学制度として、「専門職大学」が2019年4月に創設される。卒業時には学位として国が認めた専門職の「学士」が取得できる。医療系は全国で5校が申請中。

すべての報告を終えて、委員からは以下の質問があった。

- ・2017年度の国家試験結果の報告はあったが、ここ数年の合格率の推移はどうか。
  - 看護師は合格率100%だった年度もあるが、だいたい全国合格率並みである。保健師は、昨年度とても厳しい結果だったが、一昨年まではほぼ全国合格率並みである。保健師の合格率が低いのは、看護師と合わせて2つの国試に合格するという学生たちのモチベーションが低いことが考えられる。また、保健師の求人が少ないことも影響している。
- ・岡崎委員に対して、岩国市の保健師求人の実態について質問があった。
  - 昨年度は3名の求人に対して、2名を採用した。昨年、一昨年と応募件数は少ない。臨床経験はなくても大丈夫なので応募をしていただきたい。
- ・2017年度の国家試験の合格率は分かったが、具体的な人数（受験者・合格者）はどうか。
  - （看護師）保健看護学科：受験者34名、合格者33名、不合格者1名、合格率97.1%  
看護学科：受験者15名、合格者14名、不合格者1名、合格率93.3%  
（保健師）保健看護学科：受験者34名、合格23名、不合格者11名、合格率64.7%
- ・看護師の受験資格が通信制の場合、10年から7年に短縮されたが、看護学科の募集が厳しいことに影響があるか。
  - 本校において影響はない。
- ・高校の衛生看護科の入学者も減っているのか。
  - 別紙資料にもあるが、学校数・入学者とも減っている。
- ・看護教育を4年制にすることでレベルは上がるのか。
  - 4年制の看護大学のレベルもさまざまである。3年制が4年制になればレベルは上がると思うが、判断はしづらい。

## 2. 審議事項

### 1) 保健看護学科・看護学科のカリキュラムについての概要

- ・藤中、矢野学科長から各学科のカリキュラムについて説明があった。別紙資料参照のこと。
- ・保健看護学科については、国が定める指定規則単位122単位に対して126単位としている。基礎看護学実習と統合分野を基準より手厚くしている。
- ・看護学科についても、国が定める指定規則単位65単位に対して68単位としている。基礎看護学と成人看護学の内容を基準より手厚くしている。

### 2) 2018年度学科運営について、重点事項と具体的な取り組み

- ・藤中、矢野学科長から各学科の運営について説明があった。別紙資料参照のこと。
- ・保健看護学科については、重点目標は国家試験の合格率を上昇させることと、単位未認定者をださないという2点である。また教育方法の見直しや検討については、各教員の参加した研修内容を共有したり、学年別に目標を掲げ、それをもとに個人目標と具体策を立案し実施・評価を行っていく。今年度は学生の学習意欲を育てる新たな取り組みとして、1年生には1泊2日の宿泊研修、2年生には戴帽式（看護

の心を誓う日)を11月に予定している。

- ・看護学科については、教え込む教育から、学生が主体的に思考する教育を目標としている。学生たちがやらされ感を感じるのではなく、自ら考える教育をしていきたい。また、主体的に学生を授業参加させる方法を考える上で、反復授業の工夫にも取り組んでいる。さらに、成績不振者の学習方法を把握し、学生が興味を持つような個別学習指導を行っていく。

2 学科の報告を終えて、委員からは以下の意見・質問があった。

- ・先日、YMC A卒業後、医師会病院で働く先輩が学生たちに講演をする機会があったが、身近な先輩の将来像を見せることは学生たちにとっても、先輩にとってもお互いに良い効果があると思う。
  - ・学校では自主性を育むさまざまな取り組みがされているが、病院現場にも活かしていきたいと思うのでぜひその手法を教えていただきたい。
  - ・学生の主体性を育てるためには目標を与える必要がある。
  - ・2学科ともカリキュラムの工夫がされている。
  - ・今年の保健看護学科の入学生が50名と報告があったが、学生たちは本当に看護師になりたい(向いている)と思っているのか。
- 最近の学生たちの目的意識は低いと感じる。本人の意思で看護師を目指すのではなく、家族や学校の先生たちの勧めで本校に入学して来ている学生が増えている。
- ・看護師、保健師の職種に限らず、「生きていく力」を身につけさせる教育、将来を見据えた教育が必要ではないか。

3) 学生募集戦略について

- ・特に募集が厳しい看護学科については経済的支援に力を入れている。実際に入学している学生は、さまざまな奨学金や修学金制度を利用している者が多い。近隣の病院で准看護師として勤務している社会人募集にも力を入れているので、対象者がいれば紹介いただきたい。

委員から以下の意見・質問があった。

- ・指定校枠はあるのか。 → ある
  - ・学校の知名度が低いのではないか。病院に看護体験で来た生徒と話をする中で、YMC Aを知らない生徒が意外に多いと感じる。
  - ・学校のPRの工夫が必要ではない。アイキャンでの放送や新聞記事に取り上げてもらうなど多くの方が目に触れるようなPRをしたらどうか。
- 先日行われた特別講演会の記事も中国新聞と日刊いわくにに掲載された。テレビCMは実施していないが、定期的に新聞広告をするなど出来ることは行っている。

4) その他

- ・次回の委員会については、11～12月頃を予定している。改めて日程調整をさせていただく。

以上

日時： 2019年1月29日（火） 14:55～16:30

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 岡崎 由起 岩国市健康福祉部健康推進課 主査  
村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
岡崎千寿子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護副学科長  
矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

欠席者： 浴森 公子 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

進行： 沖島 均

記録： 岡崎 千寿子

- 配布資料： 1) 保健師教育内容の変遷、看護3年課程教育内容の変遷  
2) 看護基礎教育検討会における検討事項  
3) 2018年度国家試験対策（保健看護学科）  
4) 2018年度保健看護学科学科目標、2018年度運営目標達成に向けて  
5) 2018年度看護学科学科目標、2018年度運営目標達成に向けて

## 1. 報告事項

### 1) 看護教育の動向（江見校長）…別紙資料にて説明

- ・教育内容の変遷（保健師課程・看護師3年課程）

2022年4月より新カリキュラムでの運用が開始されることになっている。

#### 質疑／意見

- ・地域包括ケアの構築にあたりチーム連携が求められている。それに応じた看護教育が検討されている。実習施設の確保が難しいということがわかった。地域の空き家を利用して高齢者を集め学生が関わるといった工夫も必要ではないか。

⇒様々な工夫が求められるが、実習先に求められる条件があるのでその条件をクリアしなければ実習施設として認められない。しかし、様々な発想の転換が必要と考えている。

- ・看護教育においては、カリキュラム上の難しさの他に、大学・専門学校の教育課程の違い、看護師教育と准看護師教育、教育時間・教員の数と質、実習施設等々様々な問題がある。それらを2020年までに整理することが必要。当面は移行措置も必要ではないか。

### 2) 学生の現状及び国家試験への取り組み状況…別紙資料にて説明

- ・保健看護学科…保健看護学科の学生数と4年生の就職状況の説明。就職は岩国市内7名、山口県内3名、広島県内17名他

- ・看護学科…1・2年生の年度はじめと現在の学生数の変動と就職状況の説明。就職は岩国市内4名、山口県内9名、その他12名

#### 質疑／意見

- ・就職はすべて看護師としてか。保健師を受けた学生はいるか。（岡崎主査）

⇒今年度は、すべて看護師として就職内定している。保健師を受験した学生はいない。公務員試験に向けてのハードルもあり、例年1～2名岩国市を含めて受験するがなかなか一次合格とならない。

- ・保健師の採用は、看護師の実務経験を経たのちがよいのかどうか。

⇒保健師は他職種と関わることが求められるようになり、看護師の実務経験よりコーディネート力が大事になる。保健師業務は、従来に比べ、幅広い力が必要になっている。岩国市の保健師数は不足しているので募集は継続すると思う。

## 2. 審議事項

### 1) 2018年度学科の運営目標達成に向けて及び2019年度の取り組みについて

- ・保健看護学科(江見校長)、看護学科(矢野学科長)より別紙資料にて報告

質疑/意見)

- ・熱心に指導されているのが伝わった。本来ならば生活の基本的態度は、親の指導により望ましい態度や行動を身に着けて社会にでていくのだが、できていない部分を学校で指導されており助けられていると思う。

- ・実習中の学生や教員の態度で気になるところはないか。

⇒特にない。グループにより差があるが、気づいたら担当保健師が指導している。社会的なマナーは心配ない(岡崎主査)。

### 2) 学生確保対策について(福水校長補佐)

各学科の学生数の現状報告(入学手続き終了者数+1月入試での合格者数)

保健看護学科…32名+7名(一般入試合格者は減る可能性あり)

看護学科…18名+1名

医療秘書学科…9名+1名

介護福祉学科…4名+10名程度(職業委託訓練生含む)

\*今後の入試日程は5回を予定しているので定員充足を目指したい

\*今年度の委員会については第2回をもって終了とし、次年度の開催は5月頃を予定している。

以 上

日時： 2018年7月2日（月） 15:00～16:20  
場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室  
出席者： 山崎 幹 公益財団法人日本医療機能評価機構 調査員  
末田 幸一 医秘法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
田中 千代 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長  
進行： 江見 享子  
記録： 沖島 均

配布資料：医療秘書学科カリキュラム表、検定スケジュール、医療秘書学科だよりV o 1. 1～3

- ・今年度より委員の交代があったので、議題に入る前に委員の自己紹介を行った。

## 議題

### 1. 報告事項

#### 1) 2017年度就職報告

- ・田中学科長から報告があった。卒業生10名に対し9名が就職した。その内、8名が正社員で残り1名はパート職。8名の就職先は病院2名、診療所4名、歯科医院1名、ニチイ学館1名。地域別には岩国市内3名、岩国市以外の山口県1名、広島県4名である。

#### 2) 選択授業開始による選択科目結果報告

- ・今年度から選択授業が始まり、6種類の選択科目を設定し、今年度の結果は次のとおりである。対象学生は11名。1人3科目を選択。ワープロⅢ：10名、医療事務管理検定試験対策（DPC）：9名、診療情報管理検定試験対策（ICD）：9名、介護報酬請求事務検定試験対策：5名。カリキュラムは別紙資料参照のこと。

#### 3) 医療秘書学科だより（第3号）発刊

- ・先月、医療秘書学科だよりの第3号が完成し、実習先・就職先・市内医療機関等に郵送済である。4号以降については、病院等からの反応や誌面の編集への意見などを掲載していきたい。また、誌面に掲載してほしい内容をアンケート調査することを考えている。さらに3号までは学科教員主体での誌面作成だったが、今後は学生にも編集に加わってもらうことを検討している。

すべての報告を終えて、委員からは以下の質問や意見があった。

- ・医療秘書学科だよりを就職先に送っているということだったが、就職先の卒業生に見てもらえるようにしたらどうか。また、卒業生宛に手紙（メッセージ）とかも添えたらどうか。  
→ 参考にさせていただく。現在、専門業者に委託し卒業生の名簿管理を進めている。名簿管理後は、機関誌などの情報発信を予定している。
- ・医療秘書学科だよりは何部印刷しているのか。また学生たちには渡しているのか。

→ 約100部を内部印刷している。学生たちには渡していない。

## 2. 審議事項

### 1) 医療事務職として必要な資格・教育

- ・田中学科長より現在学生たちが受験している検定について説明があった。別紙資料参照のこと。学科として必修資格と選択資格に分けている。

説明を終えて、委員からは以下の質問や意見があった。

- ・就職先が病院・診療所・歯科医院とさまざまなので、就職先が求める資格は異なってくる。そのため、就職先に合わせた資格を取得させるというのは難しいのではないかと。
  - ・病院内の事務職には文書管理の能力や文章力は必要である。学生たちにはなぜこの資格が必要なのかを説明すべきである。目標資格を明確にした方が良い。
  - ・末田事務長から必修資格にプレゼンテーション作成検定とメディカルフロントコンシェルジュがあるが、これは必要か。当院に関しては必要ないとの意見があった。
- 研究発表の手伝いをする際にはパワーポイントの知識はあった方が良く考える。メディカルフロントコンシェルジュについても接遇に関する資格として学習している。
- ・どの資格が役に立っているのか。卒業生から聞き取りをしたらどうか。
  - ・必修資格と選択資格の見直しが必要ではないか。
  - ・学生が2年生になった時に何名ぐらいの学生が就職先を決めている（考えている）のか。
- 半分くらいである。

### 2) 学生確保対策

#### ① 広報活動について

- ・田中学科長より現在実施している広報活動について説明があった。今年度の入学生は13名。新年度募集についてはオープンキャンパスの参加者が少なく大変厳しい状況である。高校訪問も行っているが、高校現場からは今の高校生に「病院で事務をする（医療事務）」という発想がないとの話を聞く。

説明を終えて、委員からは以下の質問や意見があった。

- ・岩国市は広島県に比べ給与体系が低く、格差が広がっている。学生たちが広島方面へ進学する傾向は止められないと思う。
  - ・学科名の変更を検討したらどうか。例えば、医療秘書学科よりはドクターズクラーク科とか医療事務科の方が分かりやすいのではないかと。
  - ・田中学科長から末田事務長に対し、「就職する上でどんな知識が必要か」という質問があった。
- 接遇や医療事務知識は必要である。ただし当院に合った接遇などの教育は改めて行っている。

#### ② 医療事務として働いている職員の再教育について

- ・現在、医療事務として勤務している方で医療事務を学習した経験がない方を対象に聴講生制度を検討している。主には正社員よりパート職が対象となる。あまり大がかりに広報する予定はないが、希望者がいる場合には対応したいと考えている。

\* 次回の委員会については、11～12月頃を予定している。改めて日程調整をさせていただく。

以上

## 2018年度 第2回 医療秘書学科 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2019年1月25日（金） 14:50～16:10

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 山崎 幹 公益財団法人日本医療機能評価機構 調査員  
末田 幸一 医療法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
田中 千代 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長  
欠席者： 江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
進行・記録： 沖島 均

配布資料： 1) 医療秘書学科2018年度活動報告（別紙1）  
2) 医療秘書学科取得可能資格一覧（別紙2）  
3) 医療秘書学科カリキュラム表（別紙3）  
4) 医療秘書学科だより Vol. 4

### 議題

#### 1. 報告事項

##### 1) 2018年度学科活動報告

- ・田中学科長より今年度の活動報告があった。詳しくは別紙資料1参照のこと。地域交流の項目の中でYYカフェについての説明があった。学生たちが地域の高齢者と交流をすることができる良い機会となっている。
- ・委員からは、高校訪問をされているが反応はどうかという質問が出た。  
→ 医療事務の認知度の低下と生徒の都会志向（広島や福岡地域を希望）が強いため苦戦している。
- ・委員からは、資格検定を多く取得しており、合格率も全国平均に比べても大変高いので、医療秘書学科だよりに資格取得状況と全国平均と比較した合格率を掲載したらどうかという意見が出た。また検定の詳細は分からなくても合格実績を出せば、医療秘書学科のPRになるのではないか。  
→ 年度が終わったところで次の医療秘書学科だよりに掲載していく。

##### 2) 資格取得状況報告

- ・田中学科長より説明があった。別紙資料1参照のこと。主な資格取得状況として、ドクターズクラークは合格率100%（全国82%）、医事業務管理士は67%（全国39%）、メディカルクラークは92%（全国74%）となっている。メディカルクラークについては例年合格率100%を継続しているが、1名不合格者が出たため、1月26日に再受験することになっている。

##### 3) 就職内定状況報告

- ・卒業予定者11名に対し8名が内定した。残り3名の内、1名は就職を希望せず、1名は応募先は決定しており、応募のタイミング待ちである。もう1名は引き続き活動中である。就職が内定した8名の内、病院が3名、診療所4名、薬局1名である。地域別には岩国市内3名、岩国市以外の山口県3名、広島県2名である。

#### 4) 学外聴講生制度実施

- ・今年度から学外聴講生制度を始めた。実績は1名で、医事コン5回と検定対策(学科)を5回聴講した。受講生のコメントを医療秘書学科だよりの第4号に掲載している。その影響もあってか、聴講生制度に対する問い合わせの電話がかかってきた。

#### 5) 医療秘書学科だよりの第4号

- ・医療秘書学科だよりの第4号が完成し、実習先・就職先・市内医療機関等に郵送した。

## 2. 審議事項

### 1) 検定内容変更及びカリキュラムについて

- ・田中学科長より現在の取得可能資格について説明があった。別紙資料2・3を参照のこと。学科として必須資格と選択資格に分けている。つい最近医療教育財団が主催する資格の内、医事業務管理士とメディカル・レコード・コーディネーターの廃止が決定した。ただし2019年度のみ経過措置として受験が可能となっている。この変更により検定内容の見直しが必要となり、現在の案としてメディカルオペレータを新たな取得資格に追加し、以前取得資格にしていた診療報酬請求事務能力認定試験を復活させることを考えている。

説明を終えて、委員からは以下の意見があった。

- ・資格廃止の可能性等、先を見越しての取得資格の検討をされたらどうか。
- ・診療報酬請求事務能力認定試験を復活させると説明があったが、今さらレセプトの手書きが必要な資格の勉強をさせる意味があるのか。
- ・診療情報管理士は都会では不足している。
  - 診療情報管理士養成は3年制課程になるので本校で取り組むのは難しい。
- ・教育理念に従った学科運営をすべきではないか。また教育理念は頻繁に変更するものではないが、教育方針や目標は社会のニーズに合わせて変更すべきではないか。
  - 本校では毎年教育方針や目標については見直しを行い、学科運営に取り組んでいる。

### 2) 聴講生制度、機関紙のPR方法について

- ・聴講が可能な科目については別紙3のカリキュラム表の黄色の網掛けがしてある科目が対象となっている。それ以外の科目については要相談。別紙資料3を参照のこと。また、医療秘書学科だよりについては、約100部を近郊の病院・歯科医院等に郵送している。

説明を終えて、委員からは以下の意見や質問があった。

- ・聴講する場合、1科目はいくらか。また何の目的で始めたのか。
  - 1コマ(90分)が1,000円。収益目的というよりは、学校認知度を上げることと地域貢献も兼ねて聴講生制度を始めた。
- ・カリキュラム表の基礎分野の科目に、「日常医療英会話」という授業があるが、どんな内容か。
  - 外国人講師が担当し、英語に慣れることから始め、病院等での窓口応対に必要な英会話、簡単な病名等を学ぶ内容になっている。

- ・機関紙の記事として、卒業生との面談や就職先の院長や事務長から卒業生の働きぶりを聞きとり、その内容を掲載したらどうか。

→ 卒業生へのアンケート実施を検討したい。

- ・医療事務が魅力的な仕事であるということを機関紙でPRしたらどうか。
- ・成績の判定基準を上げ、定期試験の難易度も上げたらどうか。そのことで学校の評価が上がるのではないか。

\*今年度の委員会については第2回をもって終了とし、次年度の開催は5月頃を予定している。

以 上

2018年度 第1回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2018年7月24日（火） 15:00～16:40

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 山永 則宏 特別養護老人ホーム 光葉苑 施設長  
児島 照子 介護付有料老人ホーム ティエラ 管理者  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
佐々木洋子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行： 江見 享子

記録： 沖島 均

- 配布資料： 1) 2017年度実習指導者会議<通所系・施設系実習施設> (別紙1)  
2) 就職状況および学生状況 (別紙2)  
3) 全国介護福祉士国家試験の動向 (別紙3)・第30回介護福祉士国家試験厚労省資料  
4) 山口県介護福祉士養成校 平成30年度入学者数 (別紙4)  
5) 2018年度山口県福祉・介護への理解促進セミナー資料 (別紙5)  
6) 聴講生制度資料<生活支援技術I・II> (別紙6・7)

・今年度より委員の交代があったので、議題に入る前に委員の自己紹介を行った。

## 議題

### 1. 報告事項

#### 1) 2017年度実習指導者会議の報告 (2018年3月実施)

・佐々木学科長から説明があった。別紙1の資料参照のこと。

3月15日の午前中に通所系実習施設、午後から施設系実習施設との指導者会議を実施した。

さまざまな課題を抱える学生についての情報を事前に施設側に説明し、連絡を密にしながら実習を進めている。また学校側としても学生一人ひとりへの個別対応の必要性を感じている。

#### 2) 2017年度就職状況

・佐々木学科長から2015年度～2017年度の3年分の就職状況の説明があった。詳しくは別紙2の資料参照のこと。

#### 3) 2017年度介護福祉士国家試験合格状況

・佐々木学科長より全国の介護福祉士国家試験の動向について説明があった。詳しくは別紙3の資料参照のこと。2017年度(第30回)から本校学生も受験が始まり、卒業生全員が受験し合格率100%であった。受験資格別の資料から本校のような介護福祉士養成施設の受験者の比率は全体の8.6%と少なく、全体の60%を社会福祉施設の介護職員等が占めている。

#### 4) 山口県介護福祉士養成校の学生状況と当校の学生状況

・山口県内にある介護福祉士養成校5校の2018年度入学者数について説明があった。どこも定員割れ

しており本校同様厳しい状況である。また本校の学生状況については別紙2を参照のこと。

#### 5) 2018年度山口県福祉・介護サービスへ理解促進セミナーについて

- ・2018年度のセミナーを7回予定しており、既に2回を終了している。日程・内容等については別紙5の資料参照のこと。委員の施設のスタッフの皆様や関係者の参加をお願いしたい。

報告を受けて委員の皆様から以下のような意見や質問等が出た。

- ・学生は夜勤を嫌う傾向があるか？ 施設側としては夜勤ができるスタッフを探すのに苦勞をしている。  
→ 夜勤を嫌うかどうかは学生によって異なるので一概に嫌うという訳ではない。ただ学校側として技術・知識不足の学生に対しては夜勤がある施設ではなく、デイサービス等の施設を勧めている。
- ・委員の方の施設の夜勤体制はどのようになっているか？  
→ ティエラは14時間拘束の2時間休憩。スタッフ2名体制で経験年数により2名の組み合わせを決めている。無資格者の方も夜勤に入っている。夜勤手当は1回5,000円。光葉苑も同額、スタッフは3名体制をとっている。
- ・施設の離職率はどれくらいか？  
→ ティエラは年に1～2名の退職者が出ている。光葉苑については30代の男性の退職が増えてきている。将来に不安を感じ他業種へ転職するケースが出ている。
- ・施設の研修計画はどのようになっているか？  
→ ティエラ、光葉苑とも研修計画は立てている。欲を言えば、他施設で経験を積ませてあげたいとも思うが、人的余裕がなく出来ていない。キャリアパスを活用している。外部で研修を受けたスタッフは学んだことを内部スタッフに伝えるようにしている。ティエラの場合、スタッフが休みを利用して研修に出ているが、やはり休みには出たがらないスタッフも多い。  
→ 学校側からすると求人票に卒後教育のことを詳しく書いてあると印象が良くなる。そういった施設は研修制度がしっかりしており卒業生たちを育ててもらえる施設だと確認でき、就職試験を受験する上で大きなポイントとなる。

## 2. 審議事項

### 1) 生活支援技術の聴講生制度について

- ・佐々木学科長より今年度から始めた聴講生制度の説明があった。前期の生活支援技術Ⅰについては実施済であり、のべ8名の方が受講された。ティエラから1名の参加者があった。参加者からは受講して良かったという感想が出ていたと兒島管理者から報告があった。後期は10月以降で計8コマ、生活支援技術Ⅱの開講を予定している。

### 2) 学生募集について

- ・本校のみならず介護福祉士養成校の学生募集は大変厳しい状況が続いている。学生確保には学校と施設との連携が不可欠である。キャリアパスの推進と共に、介護の魅力づくりを目指していかなければならない。

\* 次回の委員会については、11～12月頃を予定している。改めて日程調整をさせていただく。

## 2018年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会議事録

日時：2019年1月22日（火） 15:00 ～ 16:25

場所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 山永 則宏 特別養護老人ホーム 光葉苑 施設長  
山本 眞弓 介護付有料老人ホーム ティエラ 介護主任相談員  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
佐々木洋子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行：沖島 均

記録：江見 享子

別紙「次第」にそって進行

1. あいさつ
2. 委員紹介

### 議題

#### 1. 報告事項

##### 1) 学外聴講生制度及び参加状況

- ・福水特別顧問兼校長補佐から、資料（学外聴講生規程、聴講願、聴講証明書）に基づき説明した。
- ・佐々木学科長から聴講内容と参加状況を説明した。後期は開講をしていない。

##### 2) 2017・2018年度「福祉・介護理解促進セミナー」実施結果

- ・福水特別顧問兼校長補佐から、実施状況について説明した。

##### 3) 在校生の状況報告

- ・佐々木学科長から説明した。  
今年度2年生の卒業予定は11名、就職内定者は10名でそのうち、実習先に就職する学生が8名である。

#### 2. 審議事項

##### 1) 2019年度「福祉・介護理解促進セミナー」のテーマについて

報告事項1)の資料を参考に意見をお願いしたい。

- ⇒・一般の方を対象とした認知症のセミナーのテーマをどこにするか。岩国市の認知症サポーター養成講座の依頼も減少しており、基礎的な部分はクリアできたかと思うので発展したものが求められるのかと思う。
- ・よく聞かれることとして、自家用車の乗降をどうすればよいか、食事はどんなものを用意すればよいか、介護疲れ等ストレス解消方法などがある。
- ・最近では災害も多いので、防災対策についてもよいのでは、災害時大事なことや避難所でどう過ごすかなど今できる準備と対応についても必要なのではないか。

講師として適任な方がおられたら教えていただきたい。

- ⇒・食事については、管理栄養士が嚥下機能なども考慮した上で当施設では考えている。ストレス解消

については心理療法士などが対応することが多い。車の乗降はタクシー会社に専従がいると聞いている。

## 2) 学生確保及び今後の介護福祉教育について

佐々木学科長から資料に基づき説明する。

- ⇒・職業委託訓練生の話しも聞くが、施設の中で資格をもっていない職員をだすのは難しい。
  - ・最近の動きとして、5名以上あつまれば教室を用意すれば施設で実務者研修が開講できるといった案内もきている。これを高校生に向けて施設がアピールすることもあると思う。
  - ・施設側としては、卒業生がどう就職をしていくかに関心がある。岩国市内にうまく散らばって就職をすれば、施設としても学校への関心が高まるのではないかと思う。
  - ・職業講話では「きらり輝く福祉・介護」を使って岩国YMCAをアピールしていきたいと考えている。
  - ・施設見学に来る高校生がいつていることとして、勉強が嫌いということがある。そのような生徒へのアピールとして、学校は楽しいこともしているというのも必要ではないか。
- また、すぐに働くか、どっちがいいのかと聞かれることも多いが、本人が介護職への学習を希望しても、保護者が反対し学校にはいけないということもあり難しい問題であると思う。

## 3) 学外聴講生へのPRについて

施設として聴講は仕事の時間を使うのか、個人の自己研鑽なのか

- ⇒・今回は仕事の時間で受講した。

来年度も聴講生についてPRするにあたって、案内を実習施設のみにするのか、卒業生のいる施設まで対象を増やした方がよいのか。

また案内はいつまでに出せば受講が可能となるのか意見を聞きたい。

- ⇒・当施設では7～8割は資格をもっている。高校卒業後すぐに働いている資格をもたない職員も1回受講すればよいが、学ぶ機会があるのはよいと思う。
- ・知識をもつための受講も必要だが、中堅職員のフォローアップとして聴講をPRしてはどうか。新たな知見を得たり、新人職員教育のためのものともできると思う。
- ・案内は、4月の初旬までにわかればよい。

\*今年度の委員会については第2回をもって終了とし、次年度の開催は5月頃を予定している。

以 上